

第143回:なりふり構わぬ陣取り合戦

ついこないだ公表された中国人民解放軍の人事異動には驚いた。総兵力230万人を擁する軍の頂点に立つ中国共産党中央軍事委員会は、主席・胡錦濤、副主席・習近平のシベリアン2名を除き、全員が制服組であり、37名の上将のなかから選抜された2名の副主席と、8名の軍事委員が胡錦濤体制を支えている。11月8日から開催される18回大会における共産党の大幅な人事刷新には、党傘下にある人民解放軍の異動も当然含まれる。

習近平と李克強を中核とする新指導部(チャイナ・ナインもしくはチャイナ・セブン)の人事が「現17期」ではなく、来週から始まる「翌18期」で正式決定されるように、人民解放軍の新体制は党人事が決まってからになるだろうと思っていたら、今期最後の中央委員会(7中全会)で主要人事が固まったのに先ず驚いた。第17期大会で党総書記を退任する胡錦濤は、自らが築き上げた共青团派を守るため、最大の懸案事項をどうしても自分の手で片付けたかったようだ。

2名の副主席を含む制服組10名の軍事委員のうち、8名が年齢の関係で退任することが固まっており、留任する資格のある許其亮(空軍司令員)と常万全(総装備部長)の2人が、現ポストを手放した上で順当に軍事委副主席に昇格し、ヒラ軍事委員には新たに四本部長に就任した上将たちが就任するものだと思われていた。筆者も前回のコラムでそう断言してしまった。広東語でガウチョア〜!と叫びたい気分だ。

結論として許其亮は副主席に昇格したものの、もう一人は何と済南軍区司令員の范長竜(範長龍)というダークホースだったから吃驚した。兵科は砲兵、しかも兵卒からの叩き上げだ。10日くらい前の香港紙が、「范長竜、副主席に内定」と報じ、日本のマスコミも半信半疑でクエスチョンマーク付きで転載していたものの、四本部長(参謀・政治・後勤・装備)と軍事委員を飛び越え軍事委員会の副主席、しかも許其亮を抜いて、制服組のトップに躍り出るとは、前代未聞の樁事である。帝國陸軍でいえば旅団長が師団長を飛び越え、参謀総長に就任したようなものだ。香港紙もこの人事を「爆冷(大番狂わせ)」と報じている。軍事委員会では、これから更に7人の新軍事委員が誕生するはずだが、二人の副主席が決まり、四本部長も固まれば、あとの人事はどうでもよろしい。残る関心事は、胡錦濤が鄧小平や江沢民の先蹤を継ぎ、あと2~3年くらい軍事委員会の主席に留まるか否かである。おそらく胡錦濤は留任し、習近平にはしばらく忍耐の時期が続くだろう。

筆者はこれまで30年近く、中国の政権の有為転変を眺めてきたが、流血の天安門事件の前後を除き、平和な時代にこれほど積極的というか、派手というか、えげつない権力闘争は見たことがない。今年2月に重慶で勃発した薄熙来事件が引き金となり、周永康(政治局常務委員)共犯説、習近平(副主席)の不動産ビジネス、温家宝(首相)一族の27億ドル蓄財疑惑等が次々にリークされて、中国の権力闘争はネット時代に相応しく、ニューヨークタイムズ紙まで巻き込んで情報戦の様相を呈している。

これらのスキャンダルに平仄を合わせるかのように、昔懐かしい喬石、江沢民、李瑞環、朱鎔基といった長老が、「回顧録を出版」、「オペラを鑑賞」、「テニスの試合を観戦」、「清華大の記念行事に参加」といった

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

ニュースが最近立て続けに報道されており、辛櫃か何処かに片足を突っ込んでいた米寿や卒寿の尊老がキョンシーのように甦ってきたのは、可愛い子分たちへの援護射撃であり、同時に一族郎党が享受している利権や資産の防衛戦でもあるようだ。

毛沢東が「銃口から政権が生まれる」と喝破したように、中華人民共和国をつくったのは中国人民解放軍であり、中国では軍を制する者が全てを制するのである。胡錦濤がしゃにむに軍権壟断に奔った所以は、解放軍が太子党と江沢民派の牙城だからである。胡錦濤や李克強、李源潮たちの出身母体である共青团（共産主義青年団）は共産党の最大派閥であるものの、解放軍のなかの勢力は弱い。いま太子党が最も強い勢力を保っている組織が軍隊である。一方、軍における江沢民派の影響力も侮れない。いまの解放軍の最高指導部の多くが江沢民によって上将や中將に任命されているからである。

太子党の多くが解放軍に所属する理由は明らかだ。「戦争というのは済んでしまえばつまらないものだ。軍人はそのつまらなさに耐えなければならない」と云ったのは日露戦争で活躍した黒木大將だが、黒木が云うとおり、戦争のない平和な時代の軍隊勤務は楽なモノである。200万人を超える巨大な組織のなかで太子党の子弟たちを手厚く処遇することは簡単で、仮令アタマがピーマンでも、なんとか軍区の、なんとか師団の、なんとか聯隊の、副政治委員なんてポストは二束三文で転がっている。軍人の唯一のデメリットは本俸が低いことだが、中国人民解放軍は中国で最大の地主であり、軍用地という名前の不動産は宝の山である。解放軍系のディベロッパーと協力して地上げすれば、サイドビジネスはいくらでも可能となる。

いま人民解放軍で活躍している劉源・秦衛江・張海陽・劉曉江・劉亞洲・楊東明・毛新宇といった將軍たちの実父や岳父を辿れば、劉少奇・秦基偉・張震・胡耀邦・李先念・楊成武・毛沢東といった泣く子も黙る元勳たちが顔を出す。太子党の習近平から見れば、彼らの多くが身内のような存在であり、劉源のように子供のころから仲の良い友人も多い。

軍部における江沢民派排除は、江沢民が任命した將軍たちが退役する年齢になれば自然に完了するが、軍内部の太子党は余りに多く、完全排除は不可能である。こんど総装備部長に栄転し、次の軍事委入りが確実視されている張又俠上將の実父は抗日戦争で活躍した張宗遜上將であり、許其亮副主席の親も將官だったといわれている。これほど巨大な解放軍内部の太子党勢力を牽制できる人物は胡錦濤だけであり、彼の最期の御奉公が今回の人民解放軍サブライズ人事だったのである。（了）

文中の見解は全て筆者の個人的意見である。

平成24年11月6日

筆者プロフィール

杉野光男

東洋証券株式会社 主席エコノミスト

一橋大学商学部卒、三菱信託銀行(現三菱UFJ信託銀行)入社、上海華東師範大学へ留学

同行北京駐在員、上海駐在員事務所長、理事中国担当部長を経て、2007年より現職

著書 日本の常識は中国の非常識(時事通信社)、中国ビジネス笑劇場(光文社)等

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

2/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号
日本証券業協会 加入
本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 TEL03-5117-1040

ご投資にあたっての注意事項

手数料等およびリスクについて

①株式の手数料等およびリスクについて

- 国内株式の売買取引には、約定代金に対して最大1.2075%(税込み)(約定代金が260,869円以下の場合、3,150円(税込み))の手数料をいただきます。国内株式を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。

国内株式は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。

- 外国株式等の売買取引には、売買金額(現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買いの場合には加え、売りの場合には差し引いた額)に対して最大0.8400%(税込み)の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

外国株式は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

②債券の手数料等およびリスクについて

- 非上場債券を募集・売出し等により取得いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。

債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、元本の損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動等により価格が上下するほか、カントリーリスク及び為替相場の変動等により元本の損失が生じるおそれがあります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本の損失を生じるおそれがあります。

③投資信託の手数料等およびリスクについて

- 投資信託のお取引にあたっては、申込(一部の投資信託は換金)手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。

投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価格が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

④株価指数先物・株価指数オプション取引の手数料等およびリスクについて

- 株価指数先物取引には、約定代金に対し最大0.0840%(税込み)の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。
- 株価指数オプション取引には、約定代金、または権利行使で発生する金額に対し最大4.20%(税込み)(約定代金が2,625円に満たない場合は、2,625円(税込み))の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。

株価指数先物・株価指数オプション取引は、対象とする株価指数の変動により、委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。